

陽気会の初任者研修の特徴

<介護職員初任者研修とは>

介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー2級）とは、介護に関する基礎的な知識・技術を学ぶ研修で、これから介護の勉強をしたい方やこれから介護の仕事をする方にうってつけの、実践的な資格です。

福祉や介護に関心はあるけどどういうものかわからない、福祉施設やサービス事業所で働きたい・働いているけどちゃんと勉強したい、これから介護をする方、すでに介護をされている方、どなたでも受講可能です。どの年齢の方でも OK です。

<理念>

「地域に福祉の心の種をまきたい。」

「本当の意味で喜びのあるお世話を伝えたい。」

「他人の幸せが、自分の幸せになる。」

<実績>

- ・初任者研修の前身である訪問介護員2級・3級課程養成研修（通称「ホームヘルパー2級（3級）」を平成11年（1999年）から実施しています。
- ・交通の便が悪い立地でありながら、香取市を中心に、成田市・東庄町・旭市・多古町・神崎町・匝瑳市、茨城県稲敷市・神栖市ほかから約1100人の修了生を輩出してきました。
- ・令和5年度から通信課程に変更することにより、研修会場に足を運んでいただく日数を大幅に減らして、より研修が受けやすい体制になりました。

<研修の体制>

- ・残念ながら介護職員は全産業と比較しても、低賃金です。それでも介護職員になりたい方がいらっしゃるということは、給料とは別の次元でやりがいがある魅力的な仕事だと思ってくれているからだと思います。そのような方の背中を押す意味もあって、なるべく低い研修費に抑えつつ、研修の質は上げる工夫をしています。現状の研修費設定でも毎年今より低くできないか模索していますが、昨今の物価上昇、賃上げなどの影響により、今年度は研修費は据え置きますが、来年度は残念ですが研修費を上げざるを得ないと考えています。
- ・参集学習（スクーリング）の日数は、過去の研修生の声を参考にしてなるべく少なく設定しています。最近では、仕事の休みを利用されながら研修を受ける方が増えていますので、1日みっちり研修に参加していただいて研修日数を減らすようにしています。
- ・スクーリングは、栗源デイサービスセンターの定休日である土日に実施するため、研修生にとっては仕事や学業が休みの日に受講できます。

<研修内容>

- ・実習を必修にしています。現在の国や千葉県が定めるルールでは実習をやらなくても、実習分の学習を別にすれば修了できる仕組みになっていますが、当法人は現場で体験することを重視しています。テキストに書かれていることや講師が話していることも学習になりますが、“習うより慣れろ”という言葉のとおり、介護は実際の現場に触れてこそ学習の質が高まります。実習をしないで研修を修了した場合、いきなり現場で働くことになり、大変な不安が生じると思います。また、実習をとおして自分が介護に向いているかどうかを判断できるきっかけにもなります。さらに、特に高校生などの学生にとっては、そもそもお年寄りと触れ合う機会が少ないため、優しくしてくれるお年寄りに触れることは人生にとって重要な体験になります。
- ・講師陣は、今も現場で勤務しているベテランの介護職員です。過去には、大学の先生などに講師を依頼したこともありましたが、現場の考え方とはかけ離れた話を展開したり、介護の方法は利用者さんに合わせて様々であっていいのに「福祉はこうあるべきだ!」とされたりと、当法人の研修の考え方とは合わなかったことがありました。また、テキストには絶対出てきませんが、職員同士の人間関係に代表される「お局様」などの存在も介護現場では大変な影響力があります。そのような介護現場のリアルを伝えられるのも、現場の介護職員ならではのだと思います。
- ・介護職員の講師のなかには、日本福祉大学大学院の修了者だったり、千葉県の福祉分野では有力な淑徳大学を卒業した者もいます。また、これまでの活躍が認められて知事から表彰されたヘルパーや香取地域で活躍している作業療法士を招いたり、医療系の科目では現役の医師に講師を依頼していて、かなりレベルが高く、魅力的な講師陣だと自負しています。
- ・認知症の科目では、VRゴーグルを装着してバーチャルリアリティーのなかで認知症の方の感覚を体験する最先端の教材を導入しています。また、福祉用具の科目では、なるべく多くの福祉用具を用意して、福祉用具の魅力を伝える研修を行っています。
- ・過去の修了生から話を聞くと「研修でなにをやったかは忘れちゃったけど、あのときに会った人とは今でも連絡を取り合ってたまにお茶してます。」とおっしゃることが多いです。この研修の醍醐味はそこだと思います。研修で知り合った仲間と研修が終わった後も連絡を取り合って、仕事の話、家族の話、病気の話をしてお互いに支え合うことが大切だと思いますので、当法人の研修は“仲間づくり”を意識して展開しています。

(令和7年5月1日)